

●2022年度第2回理事会を8月26日に中部住民センター（せせらぎ）で開催します。

大村幸正理事長に代わってから1年半が経過しました。1年を経過してそれぞれの気心もわかり始め順調に活動がすすみはじめました。しかし予想もしていなかった「コロナ」の感染者拡大が第7波になる中で、異常高温の夏、そしてゲリラ豪雨の連続で、里山の会の夏の定番である子どもたちの夏休みの「魚とり」はこうした状況のもとで、フタッフの体力の後退、健康・熱中症予防などから中止せざるを得ない事態になりました。たいへん残念なできごとでした。また事務所前の市道が住宅開発のため拡張となって事務所が取り壊され、現在仮設事務所での活動継続となっています。先の魚とり中止の大きな原因であった、スタッフの高齢化による体力の後退や、会場地の除草作業の困難さなどは、さらに大きな負担となってくることは明かです。これらの課題を乗り越えようと対策を考える第2回理事会を開催いたします。25年の歩みを積み上げてきた里山の会は、今最大の課題に直面しています。皆さんの積極的なご提案をいただきますようお願いいたします。理事会に間に合わなくても最終決定は2023年度総会時となりますので、よろしくご協力をおねがいします。

●京の七夕の笹竹回収で感謝 新京極商店街

7月末から8月初めに京都市商工会から「京の七夕まつり」に笹竹の提供が呼びかけられて、里山の会から京都市内の4商店街に笹竹を届けました。そのうちの一つ、新京極商店街から取り組みが終わったので使用済みの笹竹を引き取りに来てほしいとのことで、18日に太田さんと森島さんが出かけていただきました。

新京極の中心の六角通の広場に笹竹を結わえて、短冊を用意しておき、新京極においでになったお客さんに願いを短冊に書き込み笹竹につるしてもらうという取り組みです。用意された4000枚の短冊は笹竹につるされ、おいでになったお客さんたちはたいへん良い思い出を経験されたのではないのでしょうか。

この取り組みをしていただいた商店街の担当の人も理事さんたちも、大変楽しい取り組みで、来年にはもっと笹竹を増やしていきたいとおっしゃっていました。

●木津川で天然記念物「イタセンバラ」の復活を目指す取り組み

8月24日に大阪の生物多様性センターを訪ねました、京都水族館の副館長さんや職員と里山の会の太田・福井理事が同行しました。また大阪のイタセンの事務局長の河合先生も同行いただきました。天然記念物を、府県を越えて移動する（木津川に放流を考えている）ことはなかなか難しいとのことで、新しく活動を始めている水族館が一部を譲り受けて、繁殖できたものを放流できないだろうかというプロジェクトを具体化するための初めての取り組みです。なかなか難しいことですが何とか知恵をしばっています。里山の会は淀川水系で最後まで自然の中で生息していた木津川が環境が維持されていることを確認し、その保全や調査に摂南大学の石田先生やそのエコシビル部の学生の皆さんとがんばっています。なんとっても木津川からイタセンバラがいなくなった最大の原因は「密漁」だといわれていますので、地元山城地域で組織を作り上げて密漁防止できる体制を作り上げたいと思っています。

次のページに福井さんのまとめたいただいたものの一部を掲載します。

場所 寝屋川市生物多様性センター

参加者 センターより（山本 上原）京都水族館（川崎 石川）京都市文化財保護（福富）
里山の会（太田 福井）イタセンネット（河合）

今までの経過

3月の話し合い・・城北ワンドでのイタセンバラの繁殖が最近うまくいっていない。原因は多々あるがはっきりしたことは分からない。タイリクバラタナゴの増加でイシガイの取り合いになっているのかも。

淀川での放流が成否を問われている今、木津川への放流は難しい。

方法としては、まず京都水族館で繁殖させて、その後木津川へ放流の可能性を探る

4月・・・・・福富氏と一緒に山城大橋下流のタマリ、玉水浜のタマリを観察する。玉水浜最上流のタマリでイシガイを沢山確認する。

水族館の報告

○水族館の目標として地域への貢献、未来の子供たちに多様な生物を残していく、貴重種の保存を掲げ、職員が変わっても続けていけるシステムを考えている。その一歩にイタセンバラ、オオサンショウウオの繁殖を位置づけている。

○イタセンバラの譲渡時期、飼育方法など教えてほしい。

センターより

○イタセンバラの譲渡については・行政手続き・専門家集団の合意・地域住民の条件など難しいことが多いが、行政の福富さんがいてくれるので安心している。また、イタセンバラ絶滅のリスクを避ける意味でも京都水族館で繁殖してもらうことは意味がある。うまくいけば、木津川タマリなどで放流することも期待している。

○イタセンバラが一番強い時期は産卵を迎える秋なので、譲渡するのはその頃が良いと考える。

○二枚貝については他のタナゴが卵を産み付けていないかを確認する必要がある。6.7月ころに採集するのがよいだろう。

イタセンバラ繁殖池の観察

○センター内で繁殖させている池の2か所を観察する。

○池は冬の間に一部を水のない状態にして、タマリのような自然に近い状態を作っている。また、川では自然に起きている砂の流入を、人為的に砂入れして環境づくりをしている。

○浅い所の方が、日光がよく入るので「藻」が発生する。その藻やプランクトンを食べている。

○立ち入り禁止の池では、浅い場所をイタセンバラが群れを成して泳ぎ、藻や泥をつつくたびに体表がキラリと光る様子が観察できた。

○許可をもらい浅瀬の砂地に手を入れ探ると3cmほどの稚貝が確認できた。二枚貝が十分に繁殖している。二枚貝の繁殖に係わっているヨシノボリも沢山繁殖している。